

## 目標達成計画

作成日: 平成 23 年 3月 24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議等で築き上げてきた信頼関係を確固たるものにする為、社内研修やスタッフ個々への落としこみを確実にしていく事。特に関係委員の助言を求めていくように働きかける。	当ホームのコンセプトを目指す観点から、運営推進会議や家族会は最も力を注いでおります。大切なご意見を今以上にたくさん頂ける事、関係委員の方からも指導や助言が頂ける環境作りを目指します。	運営推進会議等では地域密着型サービスの意義から各委員に幅広く助言指導を頂ける様な進行を目指します。会議以外の日常の場においても、積極的にこちらか働きかけを行います。地域の催しものにも積極的に参加交流していきます。	12ヶ月
2	33	重度化や終末期に向けた方針の共有について家族様への助言指導と約束事の書面等での取り交わし・また医療機関・主治医との情報共有などこれから増えてくるべき課題について。	現在も1名、終末期の入居様が居られ、家族や主治医とのカンファレンスや情報共有に努めておりますが、家族様の意思が揺らいだり、その時どきに応じた確認や支援のあり方を考えていかなければならない。	ターミナルケア・看取りの介護が必要になった場合の主治医・家族・計画作成担当者のカンファレンスを定期的に行い、必要があれば随時開催していく。ホーム内においても看取りに対するケアや家族支援のあり方について研修を強化していく。	12ヶ月
3	35	定期的な消防訓練・避難訓練やスタッフの防災教育等は実践出来ているが、地域の参加者が、現状民生委員だけという事もあり、地域への周知や近隣住民への呼びかけ・参加を集う所までが出来ていない。	定期的な防災訓練や非難訓練での協力体制は一方向ではなく双方向でありたい。震災等いざという時の協力は普段からの関係性・地域でのホームの存在の周知から始まる。地域の催しにも積極的に参加し、施設の存在意義を感じて頂ける活動を行なう。	防災協力は双方向であるので地域の訓練にも参加する。運営推進会議等で地域の会館を利用しているが、その際係って頂いている地域の役員の方を中心にホームの活動や案内を広報の形で周知お知らせしていく事。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。